

令和2年度 **国** **語** (50分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
- 2 この問題冊子は25ページである。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 3 試験開始の合図前に、監督者の指示に従って、解答用紙の該当欄に以下の内容をそれぞれ正しく記入し、マークすること。
 - ・①氏名欄
氏名を記入すること。
 - ・②受験番号、③生年月日、④受験地欄
受験番号、生年月日を記入し、さらにマーク欄に受験番号(数字)、生年月日(年号・数字)、受験地をマークすること。
- 4 受験番号、生年月日、受験地が正しくマークされていない場合は、採点できないことがある。
- 5 解答は、解答用紙の解答欄にマークすること。例えば、

10

と表示のある解答番号に対して②と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の②にマークすること。

(例)

解答番号	解 答 欄				
10	①	②	③	④	⑤

- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってよい。

国語

解答番号

1

）

21

（

1 問1～問5に答えよ。

問1 (ア)、(イ)の傍線部の漢字の正しい読みを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。解答番号は 1・2。

(ア) 丹念に育てる。

1

- ⑤ ざん
- ④ しん
- ③ たん
- ② にゆう
- ① しゆう

(イ) 表情を緩める。

2

- ⑤ あらた
- ④ たしか
- ③ かた
- ② しず
- ① ゆる

問2 傍線部に当たる漢字と同じ漢字を用いるものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

川のケンリユウをたどる。

- ① 馬がソウケンを走る。
- ② ザイケンを確保する。
- ③ 自説をゲンメイする。
- ④ サイケンのない欲望。
- ⑤ 食欲がゲンタイする。

問3 次の空欄 に入る言葉として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

(新入社員が、先輩に)「お客様に何を 教えてください。」

- ① 御覧になられたらよいか
- ② 御覧になったらよいか
- ③ 拝見させたらよいか
- ④ お見せしたらよいか
- ⑤ 拝見したらよいか

問4 次の空欄 に入る四字熟語として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

自分の周りが敵だらけになってしまい の状態だ。

- ① 竜頭蛇尾(りゅうとうだび)
- ② 臥薪嘗胆(がしんしょうたん)
- ③ 朝三暮四(ちようさんぼし)
- ④ 呉越同舟(ごえつどうしゆう)
- ⑤ 四面楚歌(しめんそか)

問5 次の文章から読み取れる内容として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

エジプト、メソポタミア、インダス、中国の古代文明ではいずれも、それぞれ独自の宇宙像が発達していましたが、それらは神話や宗教と一体化したものでした。しかし、古代ギリシャではより洗練された哲学的あるいは科学的宇宙観が生み出され、その後長い間にわたって影響を及ぼしました。

(須藤靖『不自然な宇宙』による。)

- ① 古代ギリシャでは、エジプト、メソポタミア、インダス、中国の古代文明で発達したものよりも洗練された宇宙観が生み出された。
- ② 古代ギリシャで生み出された哲学的あるいは科学的宇宙観は、神話や宗教と一体化して、その後長い間にわたって影響し続けた。
- ③ エジプト、メソポタミア、インダス、中国でそれぞれ独自に発達した宇宙観は、神話や宗教を排除し、洗練されたものだった。
- ④ エジプト、メソポタミア、インダス、中国の古代文明では、同様の宇宙像が発達して、長い間に神話や宗教と一体化していった。
- ⑤ エジプト、メソポタミア、インダス、中国の古代文明で発達した宇宙像が一体化して、古代ギリシャの宇宙観が生み出された。

2

高校一年生の高橋さんのクラスでは、国語総合の時間に本の紹介スピーチを行うことになった。次の【スピーチ】は高橋さんが本を紹介する際に行ったものである。これを読んで、問に答えよ。

【スピーチ】

今回私が皆さんに紹介したい本は、原直喜さんの『ジャパニ』という本です。私は、この本を海外旅行が好きな父から紹介されました。タイトルの『ジャパニ』とは、ネパール語で日本人という意味です。

物語の舞台はネパールの首都カトマンズ、バックパッカーたちが集まる街にある安ホテル「ジャパニ」です。このホテルには世界中から旅行者たちが集まります。ホテルのオーナーは日本人女性のヤスコさん。ネパール人の夫と二人で経営しています。登場人物である宿泊客たちは、みんなそれぞれ、理由があつてネパールにやってきました。イギリスから来たジョンは、内気な息子のマイケルがこの旅を通して成長してくれることを願っています。タイ人のチャンさんは、地元で小さなチャイ屋さんを始めたいと思つて、お茶を買い付けに来ています。日本から来た老夫婦の天野さんはヒマラヤの寺院で修行する息子さんに二十年ぶりに会いに来ました。この作品の面白いところは、登場人物たちの過去や、どうしてこのネパールにやってきましたかが、それぞれの視点で描かれているところです。

そんな個性豊かな登場人物の一人に日本人女性のユマさんがいます。ユマさんはある出来事をきっかけに仕事を辞め、一人でこのネパールにやってきました。はじめは、誰が声をかけても、まったく無視をして、部屋に閉じこもっていました。でもみんなが温かい目で見守っているうちに、次第に周囲の人たちにも心を開くようになっていきます。ユマさんの背負っている過去とはなにか？ ユマさんがどうして仕事を辞め、ネパールに来たのか？ そこにはとても深い理由が隠されていました。物語の最後のほうでは、感動して涙が止まりませんでした。ぜひ皆さんにも、この本を読んで感動を味わってほしいと思います。

今回、私が紹介した本は原直喜さんの『ジャパニ』でした。御清聴ありがとうございました。

問 高橋さんの「スピーチ」の構成や内容について述べたものとして適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 7。

- ① 最初と最後に紹介する本のタイトルと作者名を繰り返すことで、タイトルと作者名が聞き手の印象に残るようになっている。
- ② 登場人物について、それぞれの事情を説明することで、聞き手が登場人物を具体的に思い描けるようになっている。
- ③ 自分が着目する登場人物について具体的に取り上げ、話を焦点化することで、聞き手が作品への興味をもてるようになっている。
- ④ 「ジャパニ」という聞き慣れない言葉に簡潔な説明を加えることで、聞き手が内容を理解しやすいようになっている。
- ⑤ 冒頭で作品のテーマを述べた後に具体的な話をする一方で、聞き手が作品の全体像を把握しやすいようになっている。

3

次にあげるのは、南高校図書委員で一年生の高野さんと二年生の加藤さんが、夏休み中に委員会の当番で図書の貸出作業を行っているときに交わした【会話の一部】と図書委員会が作成した【ポスター】である。また、【コラム】は加藤さんの発案により、この年の図書館便り10月号に書かれたものである。これらを読んで、問1、問2に答えよ。

【会話の一部】

高野さん 「返却期限を過ぎたのに、雑誌を返していない人がたくさんいますよ。」
 加藤さん 「ああ、やっぱり今年もか……」
 高野さん 「え？ 毎年こうなんですか？」
 加藤さん 「うん。去年も図書委員の中で話題になったんだ。普段の貸出と夏季特別貸出の違いが、生徒のみんなになかなか伝わっていないってことなんだよね。七月一日から夏休み前日までは、普段の貸出と夏季特別貸出の両方が行われた期間だから、この二つの貸出の違いを分かってもうえないと、こういうことになっちゃうんだよね。」
 高野さん 「あ、それで、注意喚起のために、カウンターにこの【ポスター】が貼ってあるんですね。」
 加藤さん 「そうなんだ。みんな見てくれていると思ったんだけどなあ。雑誌を借りていった人は、返却は夏休み明け一週間がいいと勘違いしてしまうから、例年、この時期は雑誌がちゃんと返却されないんだと思う。」
 高野さん 「そういうことなんですね。でもたしかに、分かりにくいですよね。」
 加藤さん 「うん。このことは去年だけでなく毎年問題になっているらしいから、九月の図書委員会のためにみんなで解決案を考えてみようよ。」
 高野さん 「そうですね。」

【ポスター】

平常貸出
(通年)

- ・書籍は5冊まで
- ・雑誌は3冊まで
- ・貸出期間は1週間

夏季特別貸出
(7/1～)

- ・書籍は冊数無制限
- ・雑誌は対象外
- ・貸出期間は夏休み中
(夏休み明けの1週間で返却)

「平常貸出」と「夏季特別貸出」の違いを、もう一度御確認ください。

今年も南高校図書館では夏季特別貸出が行われました。夏季特別貸出期間中は、今年もたくさんの方の貸出がありました。しかしその一方で、夏休みに入ると雑誌の返却を延滞する人が多くなるという状況が、今年も発生してしまいました。

図書委員会では、毎年このような状況が発生するのは、7月1日から平常貸出と夏季特別貸出が同時に行われている中、この2種類の貸出の違いを皆さんに十分御理解いただけていないためではないかと考えています。そのため、ここで改めて、「平常貸出」と「夏季特別貸出」の違いについて御説明します。

「平常貸出」では、「書籍は一人につき5冊まで、雑誌は一人につき3冊まで借りられる。貸出期間は1週間」となっていますが、「夏季特別貸出」では「書籍は冊数無制限で借りられるが、雑誌は対象外。返却は夏休み明け1週間」となっています。つまり、これらの2種類の貸出が同時に行われていた7月1日から夏休み前日においては、夏休み明け1週間を返却期限とする書籍を冊数無制限で、、1週間を返却期限とする雑誌を3冊まで借りることができるということです。

7月1日から夏休み前日までの間、書籍と雑誌とで貸出期間が異なることは、たしかに紛らわしいかもしれません。生徒の皆さんの中には、夏季特別貸出においても雑誌を夏休み明けまで貸し出せるようにすればいいのではないかという意見があることも、図書委員会では重々承知しています。しかし、図書館の雑誌は、書籍と違って種類が少ないため、誰か一人が借り続けてしまうと、雑誌を読みたい他の人がその雑誌をずっと読めないという状況が生じてしまいます。特に2年生では、夏休み期間中に課題研究をまとめることになるので、例年7月と8月に雑誌の貸出が集中します。このような理由から、図書委員会では、雑誌は夏季特別貸出の対象とせず、平常貸出のみで貸出をしたいと考えています。

「平常貸出」と「夏季特別貸出」が重なる期間中は、2種類の貸出が同時に行われています。紛らわしくて申し訳ありませんが、この2種類の貸出の違いを改めて御確認ください。

問1

九月の図書委員会では、夏休み期間中に返却期限を過ぎても雑誌を返さない人が多かったことについて、その解決策が話し合われた。その結果、図書委員会が発行する図書館便り10月号に前ページの「コラム」を掲載することにした。「コラム」の中の空欄 に入る語句として適切なものをア～オのうちからすべて選ぶ場合、その組合せとして最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

ア かつ

イ または

ウ もしくは

エ さらに

オ あるいは

① アとイ

② アとエ

③ イとウ

④ イとウとオ

⑤ エとオ

問2 「コラム」の書き手は、この文章をどのように組み立てているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答

番号は 9。

- ① 「問題の生じる原因分析」↓「現状と問題の提示」↓「二種類の貸出の説明」↓「想定される意見への言及」↓「依頼」
- ② 「現状と問題の提示」↓「二種類の貸出の説明」↓「問題の生じる原因分析」↓「想定される意見への言及」↓「依頼」
- ③ 「現状と問題の提示」↓「問題の生じる原因分析」↓「二種類の貸出の説明」↓「想定される意見への言及」↓「依頼」
- ④ 「問題の生じる原因分析」↓「二種類の貸出の説明」↓「現状と問題の提示」↓「想定される意見への言及」↓「依頼」
- ⑤ 「現状と問題の提示」↓「想定される意見への言及」↓「二種類の貸出の説明」↓「問題の生じる原因分析」↓「依頼」

4

次の文章を読んで、問1～問6に答えよ。

チンパンジーのような比較的知能が高い動物が、仲間に対して、「おれはおまえと夫婦になりたいぞ」とか「あぶないことが起こりそうだぞ」などという内容を伝達することがあることは、よく知られています。サルや霊長類研究などで紹介されたこともありますが、ご存じの方も多いと思います。

京都大学の霊長類研究所で行われていて、テレビや新聞などで紹介されたこともあり、ご存じの方も多いと思います。海に棲むほ乳類であるイルカやクジラも相当に知能が高く、人間の耳には聞こえない超音波を使って、仲間への伝達行動を行うことがあるということも、最近では知られるようになってきています。何らかの事柄を他の仲間に伝える手段を「コトバ」とか「言語」と呼ぶとすれば、人間以外のチンパンジーやイルカのような動物も、コトバを使うのだと考えることもできるでしょう。

しかし、同じようにコトバと呼ぶとしても、人間のコトバと動物のコトバとの間には相当の違いがあると考えなければなりません。同じ名前前で呼ばれていても性質が大きく違うことがあるのは、よくあることです。

同じ「大画面」と呼ばれていても、十年(注1)ちょっと前のワープロ専用機の「大画面」は、わずか六行程程度の表示しかできませんでした。ところが、現在のコンピュータ用ディスプレイの「大画面」ならば、その十倍くらいの行数を表示できるようになっています。この事実は、「大画面」という宣伝文句に惑わされて六行表示のワープロを(別売りのフロッピーディスクドライブを合わせると二十五万円も払って)買ったこの私に、名前(言語学的にいうと「記号」)の表すものの多様性あるいは曖昧性を身にしみて感じさせてくれます。

それでは、人間のコトバと動物のコトバとの間には、どのような違いがあるのでしょうか。まず一番大きな違いは、人間のコトバには「分節性」があるのに動物のコトバにはないということです。「分節」という用語は国文法で使われている「文節」と発音が同じで、「節」という漢字も共通で意味もなるとなく似ているため、この二つを混同してしまわないように注意しなければなりません。「分節」のほうは、要するに文が単語に分かれること、もうちょっと専門的にいうと、文という記号がより下位の記号単位である単語から構成されるという性質です。

伝えたい事柄を表現する記号を「文」と呼ぶとすれば、人間でも動物でもコトバによって事柄を伝えているのですから、どちらのコトバにも文があると考えて差し支えないでしょう。人間のコトバ、たとえば日本語の「その車は古い」という文であれば、「その」「車」は「古い」という単語を一行に並べることによって作られていますから、「分節」があることが分かります。

ところがチンパンジーのコトバにはこういう分節がなく、ある一つの鳴き声が、「おれはお前より強いのだぞ」とか「えさが近くにあるよ」などという事柄の全体を表すという仕組みにしかなく、つまり、いくつもの鳴き声を組み合わせて、ある一つの事柄を表すという仕組みで

はないということ、大変単純だといえます。

鳴き声を組み合わせるといふ工夫がないと、伝えることができる事柄の数は、きちんと区別して出し分けることができる鳴き声の数を越えることはできませんから、数としてはずいぶん少なく、多くても三十くらいのです。要するに、分節を持たないコトバを使うことで作り出すことができる文の数は、最大でもたった三十個にしかならないというわけです。

私たち人間ならば、一日だけでも何百あるいは何千もの異なった文を使い分けているのですから、たった三十個の文ではまともな伝達も思考もできるはずはありません。「昨日あそこのケーキ屋で買ったイチゴのショートケーキが食べたい」なんてことは絶対に言えません。

ところが十分な単語さえあれば、それを並べることによって、いくらでも異なった文を作ることができます。たとえば、「太郎」「花子」「男」「女」見た「叩いた」は「を」という八つの単語があるだけでも、それらを組み合わせれば「太郎は花子を見た」「花子は男を叩いた」「女は太郎を見た」など二十四個の文を作り出すことができます。

人間のコトバならば最低数千ぐらいの単語はもっていますし、一つの文を作るのに使われる単語の数は、無限にたくさんということではなくても、かなり多くすることがありますから、そういうふうにして作ることでできる文の数は、ほとんど無限といってもよいくらいになります。

ですから、社会がどんどん複雑になって、伝えなければならぬ新しい事柄がいくら増えたとしても、人間のコトバならばそれを文によってちゃんと表現することができるわけです。ところが動物のコトバだと、伝えることのできる事柄の数はあらかじめ決まっています、それ以上は増やすことができないのですから、^C社会とか文化とかがそれまでより複雑な方向へ変化するということが難しい、というより不可能ということになります。

宮崎県のニホンザルの間で、サツマイモなどを海水で洗って塩味にして食べるという行動が広まったというような、一種の文明の進歩が人間以外の動物にも見られないというわけではないのも確かです。それにしても、人間が高度な文明を発達させたのに、動物は昔から今までずっと同じような生き方をせざるをえなかったことの原因のうちで、最も重要なものの一つは、コトバに分節があるかないかという事実だったのだと考えることができるでしょう。

単語を並べて文を作り、文によって事柄を表そうとすれば、^D単語の並び方には必ず規則性がなければなりません。文を構成している単語の並び方を示したものを「構造」と呼びますから、人間のコトバの文には必ず構造があるということになります。

英語でも日本語でも、あるいは他のどんな言語でも、文にどういう構造があるのかを研究するのが言語学の一つの大きな目標となっていて、なかなか「文の構造ならこれで何でも表せるぞー」という成果がまだ出ていないくらい難しい分野ではあります。そして、動物のコトバには文だけあって単語

はないのですから、構造などは当然ありえないわけで、とにかくやっぱり動物のコトバはあまりにも単純なのです。

こういうふうには、人間のコトバと動物のコトバとの間には、越えがたい大きな溝があるのでして、チンパンジーやイルカがいくら知能が高いといっても、彼らの中からそのうち複雑なコトバを操る者が出てくるというのは、およそ考えられないことです。

ただ、チンパンジーの中には相当に賢いのもいて、たとえば赤いカードは「リンゴ」を表し、緑のカードは「食いたい」ということを表すのだというようになことを教えてやれば(こういうことを覚えるのならば、多分イヌでもできるのではないかと思いますが)、赤いカードと緑のカードを並べて、「リンゴを食べたい」という事柄を人間に伝えるなどということができるとだそうです。

つまりこのチンパンジーは、訓練によって文より小さい単位である単語を獲得し、その単語を並べるという行為によって、構造の概念をなんらかの形で理解しているといえるのだらうと思います。ですからチンパンジーには、人間のコトバの基本的な部分を覚えて使うぐらいの知能はあるのでしよう。

しかし、チンパンジーが人間の助けを借りずに、自分でカードとかそれに類したものを作り、それを使って他の仲間にある事柄を伝達するなどということは観察されていませんし、まあ、これからもそういう事態が起きることはないと考えられます。大体そういう面倒なことをして伝達を行うとすれば、いつもカードを持ち歩かなければならないわけです。「カードをもったサル」の集団がこの世に出現する可能性は、まずないでしょう。

また、チンパンジーの発声器官は、人間のようにいろいろな音を発音し分けるような仕組みにはなっていないのだそう、音声を用いたコトバを彼らが使おうになることもありえません。もちろん、音ではなく身振りとか指で作った形とかを使って意味を表現することを、チンパンジーたちが覚える可能性が全くないとはいえません。しかし、それより可能性が低いのが、彼らが自分たちのコトバに、分節という性質を自然に取り入れるようになるということですから、チンパンジーがチンパンジーである限りは、彼らのコトバが人間のコトバと同じ仕組みをもつようになることはないと言っているでしょう。

人間とは違うんだとばかりいうのも可哀想かわいそうですから、動物のコトバと人間のコトバの共通点もあげておきましょう。まず、動物のコトバも「コトバ」と呼ばれる以上は記号ですから、私たちの知覚に直接伝わる部分である「能記」と記号の意味である「所記」をもっています。そして、人間のコトバでは、能記と所記との関係が「恣意的(注2)」であるのですが、動物のコトバでも、先にお話ししたベルベットサルのように、三十くらいの数の記号を区別するレベルであれば、能記と所記の関係は恣意的であると考えられるでしょう。

もちろん、伝えられる事柄が仲間に対する好意とか敵意の表現だけというように、非常に少ない場合には、そのような感情とそれを表現する鳴き声との間に、かなり自然な関係があることもあるでしょうから、こういう時は恣意性があるとは考えられません。結局、人間のコトバより程度が劣る場

合はあるにせよ、動物のコトバにも恣意性は認められるとしてよいと思います。

実際、ミツバチのような、サルなどよりははるかに知能の劣る昆虫ですら、えさのある場所までの距離や方向を、アラビア数字の8の字の形になるように、巣箱の中で這い回ることによって伝えるという行為を行っているということは、国語の教科書にも載るほどよく知られた事実です。ミツバチのこの這い回り、あるいはもっと優雅に「ダンス」と呼ばれる動きは、それがえさ場までの距離や方向を表しているからには記号なのであり、しかもえさ場についての情報を伝えるためにダンスを踊らなければならないという必然性はどこにもないので、どこに出しても恥ずかしくないほどの恣意性を備えているといつてかまいません。

このように、動物のコトバと人間のコトバは、どちらも記号であって恣意性もあるのだという点では共通ですが、何より動物のコトバには人間のコトバにある分節がないため、伝えることのできる事柄の数が極端に限られているという致命的な欠陥があるのです。こういうことを考えると、私などは、動物にもコトバがあると言うのはちょっと無理なんではないだろうかなどと思っ

(町田健『言語学が好きになる本』による。)

(注1) 十年ちよつと前——この文章の出典は、平成十一年に出版された。

(注2) 恣意——筆者によるとここでは、「目」という意味を表すのに「メ」(me)という音を当てる必然性はないというようなこと。

(注3) 先にお話ししたベルベットサル——ベルベットサルは主にサバンナ地帯に生息するサル的一种。本文の未掲載部分にこのサルを素材にした

たコミュニケーション研究への言及がある。

問1 傍線部A 同じ名前で呼ばれていても性質が大きく違うことがあるのは、よくあることです。とあるが、その具体例として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

- ① 機械としては全く同一の「スマートフォン」が、使う人によって違う機能を果たす道具となっている。
- ② 「あめをなめる」というときの「あめ」と「あめが降る」の「あめ」ではその指し示す内容は異なる。
- ③ 同じ飛行機という名前でも百年前につくられたものと、現在のものとは全く違う機械となっている。
- ④ 十年前の幼少期に広いと感じた児童公園が、時間の経った現在では同じ広さでも小さな公園だと感じる。
- ⑤ 降雨時に着用する雨ガッパとレインコートはそれぞれの役割が違うので、表現も違うものとなっている。

問2 傍線部B 人間のコトバには「分節性」があるのに動物のコトバにはない とあるが、人間のコトバの仕組みについて説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 11。

- ① 「分節」とは文が単語に分かれることを意味しており、「分節」によって、単語を並べ替えることなく一つの事柄を示す単純な仕組みが成り立っている。
- ② 「分節」とは文が単語で区切られることを意味しており、「分節」によって、単語を組み合わせると一つの事柄を表すという複雑な仕組みが成り立っている。
- ③ 「分節」とは文が単語で構成されることを意味しており、「分節」によって、単語を並列に並べることで伝達の可能性を狭める仕組みが成り立っている。
- ④ 「分節」とは文を単語で区切ることを意味しており、「分節」によって、単語が様々な組み合わせられることで思考の拡散を防ぐ仕組みが成り立っている。
- ⑤ 「分節」とは文を単語で分けることを意味しており、「分節」によって、組合せを必要とせずによくの事柄を伝達する高度な仕組みが成り立っている。

問3

傍線部C 社会とか文化とかがそれまでより複雑な方向へ変化するということが難しい、というより不可能ということになります とあるが、なぜそう言えるのか、説明したものととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 社会が複雑化するということは、伝えなくてはならない事柄が増えるということにつながるが、動物のコトバは伝えられる事柄の数が決まっているため、社会を複雑に変化させる力をもたないから。
- ② 人類は多くの事柄を伝えることができるコトバを操り、高度な文明を発達させてきたが、最近ではニホンザルの例のように、新しいコトバによって文明を進行させている動物たちも出現してきているから。
- ③ 文化そのものの複雑さは人間も動物もあまり変わらないが、コトバの組み合わせの単純さにより、動物の社会は人間の社会のように発展することができず、長い間同じ生き方を強いられてしまったから。
- ④ 社会が複雑であるか単純であるかという問題に焦点が当てられたのは、ニホンザルが一種の文明の進歩を見せたことが発端であり、人間と動物のコトバの仕組み自体は考えられてこなかったから。
- ⑤ 伝える事柄が複雑化するということは、伝える手段であるコトバが複雑化することと同義であるが、そもそも動物にはコトバがなく、仲間に対して自分の考えを伝える手段をもってはいないから。

問4

傍線部D 単語の並び方には必ず規則性がなければなりません とあるが、ここで述べられている「規則性」があると考えられる事例を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- ① チンパンジーが仲間に「おれはおまえと夫婦になりたいぞ」という内容を伝達する。
- ② イルカやクジラが人間の耳には聞こえない超音波を使って仲間への伝達行動をする。
- ③ ニホンザルがサツマイモを海水で洗い塩味にして食べるという方法を仲間を広める。
- ④ 訓練されたチンパンジーがカードを使って「リンゴが食べたい」と人間に伝達する。
- ⑤ ミツバチが「ダンス」と呼ばれる動きでえさのある場所までの距離や方向を伝える。

問5 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- ① 人間と動物のコトバの違いはあまり明確ではなく、昆虫のコトバとの違いははっきりしているが、チンパンジーやイルカなどの知能の高い動物については、人間に近い性質をもっていると考えられている。
- ② 動物の中には訓練によって人間と同様のコトバを獲得するものがあり、チンパンジーはカードに類したもので訓練することによって、より複雑な社会を作る基礎となるような文章を作り出すことができる。
- ③ 動物においても、知覚に直接伝わる部分と記号の意味との間には強い結び付きがあり、ハチが「ダンス」と呼ばれる動きをすれば、どんなハチのダンスでも「えさ場に関する情報」を伝える意味をもつ。
- ④ 動物のコトバの特徴は、文を構成している単語の並び方に構造や規則性をもっていることであり、人間のコトバのように単語を記号に置き換えて自由に組み合わせる仕組みにはなっていないことである。
- ⑤ 人間のコトバの特徴は、文を単語に分ける分節性によって新しい事柄をいくらかでも表現できることであり、動物のコトバのように一つの鳴き声が事柄全体を表すという仕組みにはなっていないことである。

問6 この文章における論の展開と構成について述べたものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 人間とチンパンジーのコトバについての研究成果から始め、複雑さという視点から人間社会と動物社会の共通点を列挙した後で、社会をつくるコトバの役割をコトバの特徴から論じている。
- ② 人間とチンパンジーやイルカなどのコトバの研究成果から始め、コトバがどのようにとらえられてきたかを明らかにし、最後に自分の研究の経過を述べることで、コトバの本質に迫っている。
- ③ 人間と動物のコトバの違いについて、初めに共通点を述べることでコトバそのものの性質を明確にし、次に相違点を述べることで違いを浮き彫りにして、コトバとは何かについて述べている。
- ④ 人間と動物のコトバについて、人間のコトバに特有な性質を示しつつ、一方で動物のコトバの特徴と比較することで、結論として両者の差異を明確にして、コトバについての考察を行っている。
- ⑤ 人間と動物のコトバの違いを論じつつ、チンパンジーなどの一部の動物の飛びぬけた知能について説明を加え、ミツバチなどの生き物とは異なる猿や人間のコトバの特質をとらえて示している。

5

次のⅠ・Ⅱの文章を読んで、問1～問5に答えよ。

I

若侍が、狐が取り憑いた巫女から狐が大切に所持する白い宝玉を取り上げたところ、狐は、宝玉を返してくれば若侍を末長く守ると約束した。そこで、若侍が宝玉を返すと、狐は喜んで受け取り、取り憑いていた巫女から離れ去った。

その後、この玉取りの男、太秦(注1)に参りて帰りけるに、暗くなる程に御堂(注2)を出でて帰りければ、夜に入りてぞ内野(注3)を通りけるに、応天門の程を過ぎむとするに、いみじく物怖ろしく思えければ、「何なるにか」と怪しく思ふ程に、「実や、『我を守らむ』と云ひし狐ありきかし」と思ひ出でて、暗きに只独り立ちて、「狐々」と呼びければ、こうこうと鳴き出で来にけり。見れば、現(注4)にあり。

「さればこそ」と思ひて、男狐に向かひて、「和狐、実に虚言(注5)せざりけり。いと哀れなり。ここを通らむと思ふに、極めて物怖ろしきを、我送れ」と云ひければ、狐聞き知り顔にて見返る見返る行きければ、男その後(注6)に立ちて行くに、例の道にはあらで異道(注7)を経て行き行きて、狐立ち留まりて、背中(注8)を曲めて抜き足に歩みて見返る所あり。そのままに男も抜き足に歩みて行けば、人の気色(注9)あり。やはら見れば、弓箭兵杖(注10)を帯したる者ども数立ちて、事の定めをするを、垣超しにやはら聞けば、早う盗人の入らむずる所の事定むるなりけり。「この盗人どもは道理の道に立てるなりけり。さればその道をば経ではさまよりゐて通るなりけり。狐それを知りてその盗人の立てる道をば経たる」と知りぬ。その道出で果てにければ、狐は失せにけり。男は平らかに家に帰りにけり。狐これにあらず、かやうにしつつ常にこの男に副(注11)ひて、多く助かる事どもぞありける。実に、「守らむ」と云ひけるに違ふ事(注12)なければ、男返す返すあはれになむ思ひける。かの玉を惜しみて与へざらましかば、男吉(注13)き事なからまし。しかれば、「賢く渡してけり」とぞ思ひける。

〔『今昔物語集』による。〕

王度は、師として仕えていた人物の死に際し、持ってあれば、多くの妖怪は遠ざかるという古鏡を手に入れ、それを宝とした。ある時、王度が旅の途中に宿泊した程雄の家に、非常に礼儀正しく美しい、鸚鵡という使用人の女がいた。鸚鵡が王度の古鏡を見て逃げようとしたので、王度が問い詰めると、自分は千年生きる古狸で、これまで人の姿に化け、さまざまな人に仕えてきたと白状した。

度又謂曰、「汝本老狸、変形為人。豈不害人也。」婢曰、「変形事人、非有

害也。但逃匿幻惑、神道所悪、自当至死耳。」度又謂曰、「欲捨汝、

可乎。」鸚鵡曰、「辱公厚賜。豈敢忘德。然天鏡一照、不可逃形。但久

為人形、羞復故体。願緘於匣、許尽醉而終。」度又謂曰、「緘鏡於匣、汝

不逃乎。」鸚鵡笑曰、「公適有美言、尚許相捨。緘鏡而走、豈不終恩。但天

鏡一臨、竄跡無路。惟希数刻之命、以尽一生之歡耳。」度登時為匣鏡、

又為致酒、悉召雄家隣里、与宴譁。婢頃大醉、奮衣起舞而歌曰、

「宝鏡宝鏡 哀哉予命

自我離形 于今幾姓

生^ハ雖^レ可^シ樂^{シム} 死^モ必^ズ不^レ傷^{ウレヘ}

何^{ナン}為^{スレゾ}眷^{ケン}恋^{レン} 守^{ラント}此^ノ一^方 方^ヲ

歌^カ訖^ヲ再^シ拜^シ、化^{シテ}為^{リテ}老^ト狸^ト而^ス死^ス。一^座驚^{キヤウ}歎^{タンセリ}。

(『古鏡記』による。)

- (注1) 太秦——今の京都市にある広隆寺をさす。
- (注2) 内野——大内裏の中。
- (注3) 応天門——大内裏の中の南側にある門。
- (注4) 和狐——「和」は相手に対する親愛の気持ちを表す。
- (注5) 弓箭兵杖——弓矢と刀剣などの武器。
- (注6) 早う——なんと。じつは。
- (注7) 道理の道——通常通る道。表通り。
- (注8) 婢——女性の使用人。ここでは鸚鵡のこと。
- (注9) 逃匿幻惑——逃げ隠れしたり、人目をくらまし惑わしたりすること。
- (注10) 神道——ここでは「神」の意味。
- (注11) 于今——「于」は置き字。
- (注12) 幾姓——いくつもの王朝。
- (注13) 眷恋——恋い慕う。

問1 傍線部A 例の道にはあらで異道を経て行き行きて、狐立ち留まりて、背中を曲めて抜き足に歩みて見返る所あり とはどのような様子を述べ

ているか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

- ① 狐は指定された道には盗賊はいないと思いつつ念のため違う道を通ったが、男の不安を解消するために物陰に隠れながら歩いている。
- ② 狐はいつもの道には盗賊がいて危険だと知っていたので違う道を通りつつ、男を気遣いながら盗賊に見つからないように歩いている。
- ③ 狐は普段使っている道には盗賊がいると察知して獣道を選んで通ったが、男がそれに気づき責めたためおどしながらか歩いている。
- ④ 男はいつもならば裏通りには盗賊がいるはずだと警戒しながら通ったのに、狐は恐れることもなくのんびりとやすみやすみ歩いている。
- ⑤ 男はいつものように盗賊はいないと思いい人通りのない道を通ったため、狐は異変を察知して周囲の様子を伺いながら慎重に歩いている。

問2 傍線部B 男返す返すあはれになむ思ひける の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 狐は男が自分を信用して何度も助けを求めてきたことにあきれてしまった。
- ② 狐は男がいつまでも恩返しは続くと思ひ込んでいることを哀れだと思った。
- ③ 男は狐が男との約束を違えることなく自分を守ってくれたことに感心した。
- ④ 男は狐がいつも自分を陰ながら見守り続けていることに息苦しさを感じた。
- ⑤ 男は狐がこの先もずっと男に仕えなければならぬことを気の毒に思った。

問3 傍線部C 願緘於匣、許尽醉而終。 の理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 18。

- ① 王度の鏡に照らされ人間の姿を保つことができなくなったので、鏡をしまってもらい人間の姿で酔いながらこの世を去りたいと思ったから。
- ② 王度の鏡は強い霊力を持った貴重な鏡であると分かったので、鏡をしまわせてから王度を酔わせ奪い取って自分の物にしたいと思ったから。
- ③ 王度の鏡は見る人の本性を暴いてしまう古鏡であったので、鏡をしまってもらい人々を安心させてから酒宴を始めたかと思ったから。
- ④ 王度の鏡に照らされた自分の姿を見てとても恥ずかしくなったので、鏡をしまってもらわなければすぐに酔いが覚めてしまうかと思ったから。
- ⑤ 王度の鏡に魅了され気を抜いて正体を現してしまったので、鏡をしまってもらってから酔いを覚ましもう一度人間に戻りたいかと思ったから。

問4 IIの漢文中の漢詩に込められた思いとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 19。

- ① 自分の余命は短いので、残りの日々は恋人と過ごしたい。
- ② 自分の今までの罪を反省し、残りの人生を全うしよう。
- ③ 自分の寿命は決められないので、もっと人生を楽しみたい。
- ④ 自分の運命を嘆きながらも、自ら死を受け入れよう。
- ⑤ 自分の運命だと分かっているが、死を受け入れられない。

問5 春田さんのクラスでは、Ⅰ・Ⅱの文章を学習した後、その内容について話合いを行った。次の【話合いの一部】を読んで、後の問に答えよ。

【話合いの一部】

春田さん 「まずは両方の文章を読んで、気付いた点を挙げてみようよ。」
 夏川さん 「Ⅰの古文は、狐が恩返しをした話で、Ⅱの漢文は古鏡を使って古狸を退治した話だから共通点はないんじゃないかな。」
 秋山さん 「なるほど。じゃあ、Ⅰの古文とⅡの漢文の内容は全然違うということか。」
 冬野さん 「でも、Xを『美言』といっている点で、Ⅰの古文との共通点はあるように思うよ。」
 春田さん 「確かに内容は少し違うけれど、Yという点は両方の文章に共通していると読みとれるね。」

問 【話合いの一部】の、空欄 X、Y にあてはまるものとして最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。

解答番号は 20・21。

- X
- 20
}
- ① 王度が鸚鵡の命を助けてやると言ったこと
 - ② 王度が鸚鵡の正体を知っていると言ったこと
 - ③ 王度が鸚鵡の容姿をととも美しいと言ったこと
 - ④ 世間の人々が王度の人格をすばらしいと言ったこと
 - ⑤ 世間の人々も鸚鵡の罪を許すと言ったこと

21

Y

- ① 狐や古狸であっても周囲への気遣いを忘れず、人と協力して生きようとする
- ② 狐や古狸であっても罪を犯したことを反省し、人に尽くすことで償おうとする
- ③ 狐や古狸であっても人の心をよく理解し、人に迷惑をかけないように行動する
- ④ 狐や古狸であっても人と同様に知恵があり、人をだましたり陥れようとしたりする
- ⑤ 狐や古狸であっても人から受けた恩に感謝し、人を裏切らない誠実な行動をする

